

科目名	芸術論 I
開講期・単位	3年 春学期・講義
担当者	藤垣 エミリア

■講義の目的および概要

本講義では、アートを通して教養を養うことを目指す。西洋ビジュアルアートの歴史と発展を背景に、文字の誕生前の有史以前のアートから古代エジプトのピラミッドの高さを超える中世ヨーロッパの建築まで紹介する。人間は、なぜ「美の世界」にあこがれているか、芸術はどんな役割を持っているか、アーティストが何を求めて作品を作成しているかという問題を取り上げながらアートに対する理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ① 教員はパワーポイントを中心とした講義をする。
- ② 学生はノートを取り、毎回の小テストをオンラインで撮る。
- ③ 授業内容を復習するため課題が出される。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題のフィードバックとして、問題ある点を説明し、学生は授業をよく理解することをポイントにします。毎回の小テストは評価され、結果は学生に知らされる。

■授業計画

- ①オリエンテーション・有史以前の背景
- ②有史以前? 旧石器時代のアーティファクト・スنگル発掘・マニユポート他
- ③有史以前? 様々な地域の「ビーナス」・フランスとスペインの壁画
- ④古代エジプト① 社会的背景とツタンカーメンの墓の発見
- ⑤古代エジプト? アマルナ時代とファラオや神々の描き方・絵などの象徴的な意味
- ⑥古代エジプト? ピラミッドの役割とその運命・ミイラについて
- ⑦古代ギリシャ① 西洋芸術・民衆や美のコンセプト・オリンピックの始まり
- ⑧古代ギリシャ② から西洋建築の基本となったパルテノン神殿・メトープ
- ⑨古代ギリシャ? パルテノン神殿の中、フリーズ、アテナ・パルテノス増
- ⑩古代ローマの建築的な発見や「美」と「実」の融合
- ⑪中世① Carolingian ルネサンスとヨーロッパの国々づくりの背景
- ⑫中世? ロマネスク、修道院の文化・手書きの本
- ⑬中世? ゴシック、大聖堂の文化・騎士道
- ⑭講義内容の復習
- ⑮テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】芸術に関心をもって、教養知識を取得。歴史的な背景を学びながら建築、絵画、彫刻の分野での偉大な作品に触れる。学習者として観察力や分析ができるスキルを養う。基盤となっているパースペクティブルールを学ぶ。アートを通して西洋思想の理解が深まる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】専門知識の取得と同時にアートに対する興味や理解を深めることを到達目標とする。

DP1【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

授業の15回目後、筆記試験がある(テスト)。

毎回の小テスト 30%

ファイナルテスト 60%

課題 10%

アクティブ参加/発言 オプションポイント可能

■テキスト・参考文献

【テキスト】テキストありませんが参考文献を紹介する。毎回の授業でプリントを配布する。すべての講義のパワーポイントや資料はマナバに入れて、pdfファイルを見ることができる。復習をするとき、または欠席した場合は、講義のパワーポイントを各自で見で・読むようにする。

テキストなし

【参考文献】

“Art and Civilization”, Edward Lucie-Smith, 1992, ISBN 1-85669-027-X, Published by Laurence King

■授業外学習

【具体的な内容】

授業中は学生の発言が評価される。授業内容に関する発言が求められるので、学生がオプションポイントを「稼ぐ」ことができる。また授業で紹介されるアーティスト、背景にあった歴史的な出来事について自ら調べをお勧めする。課題は主に復習として出される。新たな知識が多くなるのでPPや配布資料をベースに復習を行う。

【必要な時間】予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業のテーマに関連する書物を読み、テレビの教育番組を参考し、美術館やギャラリーで多くの作品に触れることをお勧めする。

科目名	ガーデニング演習
開講期・単位	1年 春学期・演習
担当者	吉崎 俊一郎

■講義の目的および概要

個別(または班別)に花壇を与え、デザインから設計(基礎)、定植、管理までの花壇づくりを体験させる。

ガーデン設計・デザインに関する基本的知識・技術を深める。
各種のコンテナガーデンの実際を学び、応用的知識・技術を修得させる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

花壇設計・施工管理等、講義及び庭園での実習を中心に授業を展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習後に毎回実習記録の提出を求めます。

■授業計画

おおむね、以下の内容で授業を展開する。

- 1、オリエンテーション、生活と園芸の関わり
- 2、ガーデニングのプロジェクト計画
- 3、プロジェクト実施(育苗)
- 4、花壇準備①(植庭づくり・花壇設計)
- 5、苗のポット移植・花壇準備②
- 6、コンテナガーデニング(寄せ植え)の実際
- 7、ハンギングバスケットの実際
- 8、花壇植え付け(定植①)
- 9、花壇植え付け(定植②)
- 10、定植後の花壇管理①、繁殖の実際①
- 11、定植後の花壇管理②、繁殖の実際②、ハーブの定植
- 12、マリーゴールド・パンジーの播種・間引き・ポット鉢上げ・育苗管理
- 13、プロジェクト成果のまとめ
- 14、園芸療法的生産性から消費への体験実習
- 15、プロジェクトの反省・評価

◆その他の連絡

授業内で担当教員から案内されますが、別途500円を材料費としてお支払いいただくこととなります。

支払い方法は教員が説明いたします。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ガーデン設計の基礎・デザイン、ガーデン管理等に関する基礎的・応用的知識と技術を修得する。

- (DP2)コミュニケーション能力
- (DP4)多様性の理解と協働する力
- (DP5)能動的に学び続ける力

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

臨床心理学領域における基礎的知識、技能の修得およびそれを基にした専門知識、技能の修得や人文学領域に関する教養の修得。

自立して行動できる姿勢、課題を発見し解決する能力。

- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

実習記録(20%)、課題レポート(30%)、振り返りシート(20%)、ガーデンデザイン設計(30%)による総合評価。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

実習課題に沿って、都度関連資料を配布する。

【参考文献】

図解 ガーデニング コツのコツプロが教える園芸秘伝・小学館、ガーデニング基本大百科・集英社

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で学んだことを中心に配布されたプリントを活用する

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

学生の食と生活に関わる内容の授業として材料費として500円別途徴収いたします。

植物や自然に触れながら楽しく学んでいきましょう！

動きやすいく、多少汚れてもい服装で授業に参加してください。
また、夏は気温も高くなる日が多いので熱中症対策や水分補給には十分注意しましょう。

科目名	世界史
開講期・単位	4年 春学期・講義
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義の目的は、冷戦後に頻発する民族・地域・国家間対立などの遠因に、歴史的、文化的な意味が関連していることを理解してもらうためにある。そのために、比較文明論による枠組みを用い、「文明」という単位で世界の歴史を説明する方法をとる。

講義では、現存する「文明」内の過去の出来事だけを取り扱うわけではない。現存の「文明」の素となった過去の「文明」の主な出来事、性質についても取り上げる。そして、そのことから、過去の「文明」が現存の「文明」にも影響を与えていることを認識してもらうつもりである。（現存の「文明」に影響を与えていないものはとりあげない。）

高校までに学んできた「国家」という枠組みに基づく世界史、そのことによつてなされた欧米中心の世界史とは異なる取りあげ方をする予定である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

写真、その他資料を用いるが、基本的には内容説明を中心とした講義形式である。

毎時の課題(manabaの「小テスト」)を実施するが、時間の関係で宿題となることも多い。提出し忘れると評価に大きく影響する。また、欠席すると全体像を理解できなくなるため、定期テストにも影響するので注意すること。

なお、定期テストは持ち込み型のため、暗記を求めているわけではない。内容を理解してほしい。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、次時の講義で毎時解説するが、詳細はmanabaを通じてコメントし、フィードバックとする。

※授業は90分のうち、授業後半、学生がmanabaというシステムを使用し課題や小テストを解く前までの聴講が可能です。

社会人受講生の方には、教員から聴講時間終了等により退出の指示があるかと思います。聴講できる時間は60分～70分ほどとお考えください。

■授業計画

①ガイダンス、

文明の誕生前夜、都市革命による古代文明誕生1(メソポタミア文明)

②都市革命による古代文明誕生2(エジプト文明、クレタ文明)

③都市革命による古代文明誕生3(インダス文明、古典中国文明)

④古代の諸文明から生まれた地中海での文明1(シリア・ヘブライ文明)

⑤古代の諸文明から生まれた地中海での文明2(古代ギリシア・ローマ文明)

⑥現存する主要文明1(西欧文明)

⑦現存する主要文明2(東方正教会文明)

⑧現存する主要文明3(イスラーム文明)

⑨現存する主要文明4(インド文明)

⑩現存する主要文明5(中国文明、日本文明)

⑪西欧文明の拡大と他の主要文明との関係1

⑫西欧文明の拡大と他の主要文明との関係2

⑬西欧文明と他の主要文明との衝突1

⑭西欧文明と他の主要文明との衝突2

⑮文明間の衝突とフォルトライン

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①比較文明論に基づく「文明」という枠組みを理解できる。
- ②「文明」という枠組みを意識しながら現在の国際社会の諸問題を理解することができる。
- ③欧米中心の世界認識とは異なる、国際社会における多元性を理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- ①毎時の課題（manabaの「小テスト」） 50%
※毎時の平均点
- ②定期テスト 50%（レジュメ、ノート等紙媒体のものの持ち込み可）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・毎時のレジュメ、必要に応じた史料 配布

【参考文献】

- ・トインビー『歴史の研究』社会思想社
- ・ハンチントン『文明の衝突』集英社
- ・ハンチントン、鈴木主税訳『文明の衝突と21世紀の日本』集英社新書
- ・高校時代の世界史の教科書

■授業外学習

【具体的な内容】

予習として、高校時代の世界史の教科書をもう一度読んでくること。
復習として、各文明のおおよその地理的位置と各時代での主要な出来事を高校時代の世界史の教科書や資料集で確認しておくこと。
毎時の課題は、宿題になるケースが多々あるが、必ず期限内に行うこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

人類の歴史の全体像を捉えるためのパーツのようなものとして、「文明」をとりあげる。「文明」を単位にして講義するため、細かな部分が薄くなっている。特に近代においてはその傾向がある。今までとは異なる別の角度からの歴史であるとしてとらえてもらいたい。

情報量が多いので、配布されたレジュメだけでは十分なスペースがないかもしれない。必要であれば、各自でノートを作成してください。なお、定期テストでは細かな用語などを問うことはないので、重要な部分と思われる部分だけをメモすると良い。メモがとれないというのであれば、参考文献などの書籍にマーカー、メモ書き付箋をすることも構わない。紙媒体の書籍であれば、テスト時に持ち込んでも構わない。

科目名	アジア観光論
開講期・単位	4年 春学期・講義
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義の目的は、将来的に観光業従事者となった際に必要な知識を増やすためにある。そのために講義内容としては、次の2点を取り扱う。

東アジア観光者の現状と彼らが抱くまなざしとは何か。

アジア諸地域の観光資源、観光対象にはどのようなものがあるのか。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

写真、地図、映像、統計資料などを用いた講義形式である。

前半は「観光資源」と「観光対象」という言葉をキーワードとして、「観光者のまなざし」という視点でその関係性を理解することを目的としていく。そして、そのための確認のための課題を行ってもらう。

後半は、アジア地域における「観光資源」や「観光対象」を紹介し、その中でも特に代表する観光地、観光都市を1つ取り上げ、そこから、観光対象、観光施設の立地に関する問題点を見つける作業を課題として行ってもらう。

課題については毎時実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時の課題については、次時の講義で毎時解説するが、詳細はmanabaを通じてコメントし、フィードバックとする。

※授業は90分のうち、後半は学生がmanabaというシステムを使用し課題を解く前までの聴講が可能です。

社会人受講生の方には、教員から聴講時間終了等の指示があるかと思いますが、聴講できる時間は60分～70分ほどとお考えください。

■授業計画

- ①ガイダンス、アジアとは、観光資源、観光対象とは、
- ②訪日アジア観光者のまなざし
- ③中国人観光者の状況
- ④中国、韓国への観光者のまなざしと現状
- ⑤戦場観光資源
- ⑥JTB観光ツアーからみる東アジアの観光対象の特徴
- ⑦東アジア1・事例(韓国)
- ⑧東アジア2・事例(中国)
- ⑨東アジア3・事例(香港・マカオ)
- ⑩東アジア4・事例(台湾)
- ⑪東南アジア1・事例(シンガポール・マレーシア)
- ⑫東南アジア2・事例(ベトナム)
- ⑬東南アジア3・事例(タイ)
- ⑭南アジア・事例(インド)
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①観光者のまなざしと観光資源、観光対象の関係を理解できる。
- ②各地の観光資源を知り、説明できる。
- ③各地の観光地に潜む問題点を考察し、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
 (DP2)コミュニケーション能力
 (DP3)課題を発見し、解決する力
 (DP5)能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

①毎時の課題 50%

②最終レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・毎時のレジュメ、課題レポート 配布

【参考文献】

・金成,岡本亮輔,周倩 編『東アジア観光学 まなざし・場所集団』垂紀書房
・JTB総合研究所『旅行業務シリーズ7海外旅行実務 海外観光資源2023』
・JTB総合研究所『海外旅行地理プラクティカル』
・勝岡只『海外観光資源ハンドブック』中央書院

■授業外学習

【具体的な内容】

・前時の授業を確認し、その中から観光資源、観光対象として開発しきれていない部分、観光地の問題点等を見つけ出すことを日頃から考えるようにすること。
・manaba上の毎時の課題を期限内に行うこと。

【必要な時間】

・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

・観光概論などで学んだ「観光地」「観光資源」「観光対象」「観光施設」という用語の違いを理解しておくこと。
・アジアの地図が頭に入っていない場合は、地図帳を持ってくることを勧める。
(グーグルマップを使いこなせるのであれば、それでも構わない)

科目名	観光地理
開講期・単位	1年 春学期・講義
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義は、観光地理学をベースにし、観光地域の形成と現状、特徴を紹介するものである。
各観光地域を地理学的な「空間」「地域」として把握し、観光対象や観光施設がどのようにつ
くられ、形成されているのかを認識してもらう。そして、観光学を学ぶ上での基礎的知識、技能と
することを目的としている。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

さまざまな地図、画像、統計資料などを用いた講義形式を中心とする。それぞれのテーマに応
じた、地図読解や資料解析などによる毎時の課題(manabaの「小テスト」)を提出してもらう。具
体的には各観光地域の特徴や問題点の把握、解決法の提案などを「立地」という観点から行っ
てもらう。

また、終盤に簡単な札幌市内での観光施設の立地調査(フィールドワーク)も実施予定であ
る。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時の課題については、次時の講義で毎時解説するが、詳細はmanabaを通じてコメントし、
フィードバックとする。

※授業は90分のうち、後半は学生がmanabaというシステムを使用し課題を解く前までの聴講が
可能です。

社会人受講生の方には、教員から聴講時間終了等の指示があるかと思いますが、聴講できる
時間は60分～70分ほどとお考えください。

■授業計画

- ①ガイダンス・地理学的視点
- ②ツーリズムと地理学、読図の方法
- ③温泉観光地域1(形成・現状・課題)
- ④温泉観光地域2(事例:国内と海外)
- ⑤自然観光地域1(形成・現状・課題)
- ⑥自然観光地域2(事例:国内と海外)
- ⑦農山村観光地域1(形成・現状・課題)
- ⑧農山村観光地域2(事例:国内と海外)
- ⑨歴史文化観光地域1(形成・現状・課題)
- ⑩歴史文化観光地域2(事例:国内と海外)
- ⑪都市観光地域1(形成・現状・課題)
- ⑫都市観光地域2(事例:国内と海外)
- ⑬札幌市内観光施設の立地調査(フィールドワーク1)
- ⑭札幌市内観光施設の立地調査(フィールドワーク2)
- ⑮観光資源と立地、フィールドワークのまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①各観光地域を1つの「空間」として認識しながら、その中における現状と課題を総合的にとらえ
ることができる。
- ②観光地域の多様性と個々に内在する課題を理解し、「地域振興」を意識した課題の解決法を
自分なりに表現することができる。
- ③観光施設の立地調査から札幌市中心部の空間としての特徴を認識できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①毎時の課題（manabaの「小テスト」） 30%
※毎時の平均点
- ②フィールドワークの状況とまとめ 20%
- ③定期テスト 50%（レジュメ等紙媒体の持ち込み可）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・毎時のレジュメ 配布

【参考文献】

・山村順次『観光地理学 観光地域の形成と課題』同文館出版
・寺阪昭信『大学テキスト 観光地理学 世界と日本の都市と観光』古今書店

■授業外学習

【具体的な内容】

予習として、前時の授業内容の意味を確認し、毎時の課題に活かす。
（欠席した場合は、進んで研究室まで来て、確認すること）
日頃から地図帳をみて、世界の諸地域、諸国家の位置を確認しておく。位置確認は、事後学習として当然行う。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安としている。

■その他

欠席時の資料等は、manabaで確認すること。定期テストがあるので必要となる。
（持ち込み型のテストなので暗記を求めているわけではない。）
地理的な概念をきちんと理解すること。
中学や高校で利用した地図帳があれば便利なので持参しながら受けた方がよい。
（慣れているのであればグーグルマップでも良い）
（学生に対して）フィールドワークは7月の土曜日に予定するので、予定しておくこと。出られなければ成績は不利となる。

科目名	人間と文学
開講期・単位	3年 春学期・講義
担当者	武井 昭也

■講義の目的および概要

文学は、失われてしまった至福の一体感、到達感を我々に与えてくれる祝祭的異次元空間の一つです。文学作品を読む醍醐味は非日常的体験の享受にあるという考えを根底に据え、神話からSFまで、国や時代、ジャンルにこだわらずいろいろな作品を扱い、原型←→類型←→個別作品と、融通無碍に話題にします。人は様々な自己を表現し、あるいはそのように表現されたものを通して自己以外の存在を知ろうとします。自己と他者、自己と世界の繋がりが様々な表現されて人間世界は成り立っていますが、文学は言語を通して自己を表現する、あるいは世界を映す卓越した表現形式です。映像とともに人間と文学の関わり、文学の魅力を考え、歴史軸と地理軸をベースに人間の営みを俯瞰し、現代社会に通じる営みから幸福や平和、家族愛、悲嘆、憎しみ、祈りなど文学諸相から伝わる思いを共有しましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

指定の作品を事前に読んで臨むことを想定し解説します。また、関連する映像により視点を変え視野の広げ、出席者からの質問意見を尊重し、正解のない人生について様々な考える時間とします。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の感想用紙を紹介し補足します。また、質問や要望を反映して意見交換する内容を各自が咀嚼して最終提出課題に反映させ自身の考えを記録としましょう。

■授業計画

- ①オリエンテーション 文学とは
(* 受講者の反応で変更します)
- ②夢見る力・口承文学「オイディプス王」
- ③初恋のせつなさ「鮎」人生のはかなさ「老妓抄」
- ④小市民の幸福—O・ヘンリー「賢者の贈り物」
- ⑤不条理の悲しみ「ごんぎつね」純愛「クロコダイルとイルカ」
- ⑥中国文学の魅力—劉慈欣「三体」・李商隱「無題詩」
- ⑦明治の苦悩—森鷗外「舞姫」
- ⑧語り手は葛藤する—太宰治「人間失格」「津軽」
- ⑨韻文の魅力—万葉集・小倉百人一首・原爆詩
- ⑩人生の悔恨—カズオ・イシグロ「日の名残り」
- ⑪北海道と文学—三浦綾子・知里幸恵
- ⑫読書の楽しみ—ヘレーン・ハンフ「チャリング・クロス街84番地」・開高健
- ⑬政治と文学—三島由紀夫「憂国」
- ⑭現代社会を見る—村上龍「希望の国のエクソダス」
- ⑮まとめ・授業内試験(テーマに基づく自由記述)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

テキストを数作品消化し、文学史の教養を身につけ、現代のコンテキストに置き換え再利用できる応用的知性を獲得する。また現在の状況に至った歴史的因果を理解して、政治や社会情勢を読み解くリテラシーを高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

毎回の感想 40%

授業内課題 20%

最終レポート40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

manaba上で資料配付

【参考文献】

その都度紹介

■授業外学習

【具体的な内容】

予告した本を読んで臨めば、3倍楽しめる！

質問を用意してくると、実質個別対応もします！

授業で紹介する作品を事前に、事後に読むこと！

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

科目名	運動生理学
開講期・単位	2年 春学期・講義
担当者	国田 賢治

■講義の目的および概要

運動生理学は、生体またはその一部である器官・細胞などにおける、身体運動と関連する機能を対象とした学問である。本授業では、運動生理学の知識を身につけさせるとともに、その知識にもとづいた身体機能の測定法・分析法を習得させることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業形態は、主として教室での講義形式とする。パワーポイントやプリントを用いるなどして資料を視覚的に呈示する。定期的に振り返りシートを課し、学生自ら講義内容の振り返りやディスカッションを行うことを通じて、能動的学習を目指す。本講義は、運動生理学的研究の実績を有する教員が、運動生理学の知識を身につけさせるとともに、その知識にもとづいた身体機能の測定法・分析法を理解できる講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②運動と神経機能 I 反射運動
- ③運動と神経機能 II 随意運動
- ④運動と筋
- ⑤運動とエネルギー代謝
- ⑥運動と呼吸機能
- ⑦運動と循環機能
- ⑧運動と体温調節
- ⑨運動発達と運動学習理論
- ⑩身体機能の老化と運動実践
- ⑪神経機能測定法・分析法 I 先行研究の紹介
- ⑫神経機能測定法・分析法 II 最新知見の紹介
- ⑬呼吸機能測定法・分析法
- ⑭循環機能測定法・分析法
- ⑮ふりかえり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【【到達目標】

運動生理学の知識および、その知識にもとづいた身体機能の測定法・分析法を習得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「スポーツ健康分野に関する基礎的知識と技能の科学的視点からの理解およびそれを基にした専門知識、技能の修得」に基づき、生体またはその一部である器官・細胞などにおける、身体運動と関連する機能を理解し、さらにその知識にもとづく身体機能の測定および分析法を修得する。その学びを通じて、地域や学校教育に貢献できる指導技法を身につける。学位授与方針「スポーツ健康分野に関する基礎的知識と技能の科学的視点からの理解およびそれを基にした専門知識、技能の修得」および「スポーツ健康分野の課題分析力の修得」に繋がるスポーツ健康分野の現状を認識する。

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

振り返りシート(20%)

レポート課題(20%)

定期試験(60%)

■テキスト・参考文献

【参考文献】

藤原勝夫編著:運動機能解剖学. 北国新聞社.

■授業外学習

【具体的な内容】

運動生理学の知識および、その知識にもとづいた身体機能の測定法・分析法をメインテーマとして授業を実施する。関係する資料検索・收拾を行い、学習の準備をすること。毎時間ごとに、自身の作成したノートを振り返り、調べ学習を行うこと。

【必要な時間】

事前および事後学習は、それぞれ2時間を目安とする。